

〔学会名〕

「安全な空間の構築」第26回スペイン社会小児科学会 (SEPS) & 第38回国際社会小児科学小児保健学会 (ISSOP) 合同会議

〔発表題目〕

「子どもの権利条約」の権利に関する子どもたちと共に行う研究 ～新型コロナウイルス感染症流行下の国際比較～

〔大会期間〕

2023年11月16日(木)～11月18日(土)

〔場所〕

スペイン・バレンシア

「安全な空間の構築」第26回スペイン社会小児科学会 (SEPS) & 第38回国際社会小児科学小児保健学会 (ISSOP) 合同年次集会在、2023年11月16日から18日の3日間、スペインのバレンシアで開催された。私は、「子どもの権利条約」の権利に関する子どもたちと共に行う研究～新型コロナウイルス感染症流行下の国際比較～という表題の演題を応募し、6題の口演演題に選出され、大学の渡航費助成を受けて発表する機会に恵まれた。

今回の発表は、パンデミック下での国連子どもの権利条約の条文に関する対話から、子どもたち自身が社会や政治へ意見を発信する国際プロジェクトである。韓国、スウェーデン、タンザニア、日本のチームで構成され、子どもの権利条約第12条にある「子どもたちは自分に関わる事柄に対し、自由に意見表明する権利」に基づき、日本で37回、韓国で22回、スウェーデンで16回、タンザニアで18回、子どもの権利を守る政策提言を子どもたち自身がおこなった。

子どもたちと共に行う参加型研究である今回のプロジェクトには、各国概ね10歳以上の子どもたちが参加した。子どもたちの政策提案には、大人の思い及ばないものも含まれ、各国による違いも確認できた。差別の禁止を謳った2条の日本での話し合いでは

「男女を分ける教育をやめて、性別そのものをなくすべきだ」という提案があった。韓国の子どもたちは、31条遊びと文化活動の権利に関して「ノーキッズゾーン」は典型的な子どもの権利侵害なので、なくすべきだとした。ノーキッズゾーンは、レストランや公共施設での子どもの同伴を禁止するもので、日本でも保育園建設への反対など共通する問題がある。タンザニアの子どもたちは、女兒が家事を担わされて遊び遊ぶ権利を奪われている問題を挙げ、「政府は親に対して家事を子どもに強要しないよう教育すべき」と提案した。一方スウェーデンの子どもたちからは、12条の意見表明権に関して「すでに意見を述べる仕組みはあるので新たな提案はない」とした。2020年に国内法を子どもの権利条約に適合させた最初の国スウェーデンの先進性を垣間見る思いがした。本発表は、2題の優秀演題の一つに選ばれた。

本学会のテーマである子どもの安全な空間の概念には、さまざまな切り口が用意されていた。日本にも関わる内容としては、高所得国の子どもの貧困問題で、イギリスの Nick Spencer は、問題は政策によって決定される点を明確に解説した。また、消費者として子どもを位置づける企業戦略をアルゼンチンの Raul Mercer が解説し、彼らは「科学」を用いて子どもたちを消費する側に組み込んでおり、これは気候変動問題に匹敵する大きな脅威であると論じた。こうしたメッセージ性の高い議論がされる、社会小児科学の研究者たちの思想というか哲学の崇高さに改めて感銘を覚えた学会となった。

このように、社会小児科学の考え方は、海外の多くの国で根を下ろしている。一方日本では、そうした考え方は、医学界全体に欠落していると言ってもよく、むしろ政策決定側に従順な側面が強いとも言える。社会正義・公平性・平等、こうした言葉を前提にした医学界の議論を広げられるように努力したいと思う。(武内 一)